生きるのが飽きたので

秋時雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生きるのが飽きたので

【Nコード】

N9221P

【作者名】

秋時雨

【あらすじ】

いつまでも変わらない日常に飽きてしまった。

毎日同じことを繰り返すだけの日々に飽きてしまった。

歯車のごとく回り続けるのが飽きてしまった。

だから、俺は。

(前書き)

「俺勇」のネタが詰まってきたので気分転換に。

鬱っぱいかも。嫌な方は戻るボタンを押して行ってね！

決められた時間に起き、決められた時間に顔を洗い、決められた時間に歯を磨き、決められた時間に朝食を食べ、決められた時間に家を出る。

この世界はいつだってそうだ。

いつもいつも、やる事なす事全てが決められている。縛られている。

決められた時間に決められた行動をしなければ、それだけで冷たい目で見られる。

決められた時間までにバス停まで行き、決められた時間にバスがそこに停まり、決められた時間にバスに乗り、決められた時間に別の場所で降りる。

世界はいつも、何もかもが決められている。

決められた時間に仕事へ行き、決められた時間まで仕事をし、決められた時間に昼食を食べ、決められた時間にまた仕事を再開する。

まるで、世界そのものが巨大な機械か何かで、俺たちは、それを支える歯車のように。

歯車は常に決められた事をしないとイケない。そうしないと、支えているものが壊れてしまうから。

決められた時間まで仕事をし、決められた時間に仕事をやめ、決められた時間にバスに乗り、決められた時間に帰宅する。

俺たちは歯車だ。だから、いつも決められた事しか出来ない。

決められた事をしなければ、世界から見放される。

やれ社会不適合者だの、やれ社会のゴミだのと蔑まれて。

決められた時間に夕飯を食べ、決められた時間までテレビを見、決められた時間に風呂に入る。

歯車は、常に決められた事をしないとイケない。

俺たちは、そんな歯車の一人なのだ。

決められた時間に風呂から上がり、決められた時間に歯を磨き、決められた時間に布団に入って眠り、また決められた時間に起きる。

そして、俺はこんな歯車のような生活に、嫌気がさしていた。

いつまでも同じことしか出来ない、俺はそんな人間になりたくなかった。

現実はずいぶん甘い。確かに夢を見ていた時もあった。だが、
現実はずいぶん甘い。

歯車のように延々と回り続ける日々。俺は、そんな日々が嫌だった。

決められた時間に同じことを繰り返す、繰り返すだけの日々。

嫌だ。こんな生活は、もう嫌だ。

同じことしか出来ない。少しでも周りと違うことをすれば、その時点で俺は世界から見放される。

繰り返す日々は嫌だ。だが、それと同じくらいに、周りから捨てられるのも嫌だった。

俺は、そんな甘い自分が嫌だった。

決められた時間にバスに乗り、決められた時間に会社へ行った。

俺は、そんな甘い自分と。

この歯車のような世界と、決別するために。

俺は。

決められた時間に仕事へは行かず、エレベーターを使い、ビルの屋上を目指す。

俺は、この世界と。

俺は、この今の自分と。

屋上は強い風が吹いていた。そんな状況で来る者はいなかった。
決別するために。

下に落ちないように設計されたフェンスを跨ぎ、フェンスと空の境界のわずかな隙間に入る。

俺は今日、歯車とは、違う事をする。

ふと、足元を見てみる。

遙か眼下には小さなミニチュアのように見える自動車が無数に走っていた。

そして、それよりさらに小さく、それこそゴミのように見える人間が複数。

それらは、俺には気づかない。

いや、気づけるはずもない。

高度が違いすぎて、下からではこちらは見えないからだ。

今まで何度か、これを実行しようとは考えていた。

だが、頭の中でシミュレートするだけで、恐怖が体を襲い、足がすくみ。歯ががちがちと鳴り、結局実行出来なかった。

だが、今なら出来る。

あの時は、まだこの歯車のような世界にも希望があるだろうと微かな期待があった。

今となつては、そんなものはもう、無い。

歯車の生活に疲れ、気力すら無くなった今の俺には、もう無い。

フェンスから手を離した。

強い風が体を後押しし、真っ直ぐに地上へ落ちていく。

さようなら、歯車の世界。

願わくば、次の人生では、もう少しましな所に送ってほしい。

頼みますよ、神様。貴方がいるのならば、この哀れな俺を救って
ください。

意識が途切れる直前に、最後に聞いた音は。

何か、硬い物にぶつかると。

自分の頭が割れる音だった。

こうしてまた一人、歯車の世界から、歯車がいなくなる。

外れてしまった歯車はどこへ行くのだろうか？

ころころと転がり、たどり着く場所はどこなのだろうか？

答えは誰にも、分からない。

(後書き)

なんか鬱っぽいオチでホントにすいません。

最近妙にストレスが溜まっていたんです。

政治には疎い私なのですが、最近のニュースを見る限りでは「ああ、日本はもう終わったな」と思うようになりました。

詳しく知りもしないで何を、という方もおられるでしょうか。

ですが、ですよ？

隠蔽です。最近のニュースを見る限り、この言葉を多く聞きます。

詳しい話はわかりません。ですが、隠蔽、と聞いて良い印象があるわけではございません。

何かやましいものを隠している………確か、そういった意味があったと思います。

つまり、現在の政府の人間たちは、何かやましいものを隠している。そしてそれが暴かれた。

まあ、確かに人間ですから、何かそういった感情はあるのでしよう。

ですが、仮にも国のトップですよ？そういった方々が隠蔽をするなんて、私には考えられません。

まあ何が言いたいかと聞いてみると。

短く言えば、日本はもうそろそろ滅びるなあと。

何となく、そんな感じがしたんです。

ああもう重い！勢いに任せて書いてしまったから何か良く分からん！私は何をしたらかったんだああああああああ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9221p/>

生きるのが飽きたので

2011年1月9日05時12分発行